

防火作文優秀作品

☆防火安全協会会長賞

『東日本大震災から思うこと』

大樹小学校 5年 高城 大地

東日本大震災。その時ぼくは学校にいた。学校で児童会をしていると、とても大きな地震が起こった。家に帰ってテレビを見ると、津波がおしよせて家や木、船などがどんどんこわされていた。

今回の東日本大震災での大きな被害は、大きな地震と津波がほとんどだと思っていた。しかし、いろいろ調べてみると、半数が津波のせい、火災も起こっていたということが分かった。震災による火災は全部で三百件以上、そのうち、津波にみまわれたことでおきた火災は百五十件を超えたそう。その理由は主に、塩水は真水より電気を通しやすいので、こわれた電気設備がショートして、工場の燃料やガソリンなどに引火した可能性が高いということだった。

この理由から、地震だけですんでいたら、助かっていた人がいたかもしれないのに、火災が起きて死んでしま

った人がさらに増えてしまったのではないだろうか、
ぼくは思った。

ぼくにとって火は、花火をする時、ろうそくに付ける
時、料理をする時など日常的にはあまりこわいとは思っ
ていないことが多かった。しかし、今回の東日本大震災
で火のこわさを改めて知った。

火は人の命、家族や友達もうばってしまう。だからぼ
くはぜつたいに、火遊びをしない。決まりを守って花火
をするなどという、自分でできることをしっかりとやり、
火災を防いでいきたいと思う。

防火作文優秀作品

☆大樹消防署長賞

『恐ろしい思い』

大樹小学校 5年 領毛奎胡

ぼくが小学校二年生するとき、お父さんが古いバイクを動かそうとエンジンをかけていると、とつぜん、ガソリントンクから火が出ました。ぼくとお父さんは、古いふとんやタオルなどを必死にかけましたが炎の燃えるいきおいはますますばかりです。ぼくは、バイクと一緒に、ぼくもこげてしまうかと思いましたが、お父さんが庭のホースで水を出し、バイクの炎を消してくれました。炎の消えた後のバイクは、黒くこげて煙がすぐくあがっていました。

とてもおそろしかったです。

ぼくがひごろ火災について気をつけていることは、二つあります。一つ目は、火の近くには燃えるものを置かないことです。二つ目は花火をする時は、大人と一緒にすることです。

しかし、どんなに気をつけていても東北関東大震災の

ような災害が起こってしまいます。あの日、ぼくは、家へ帰ってきてテレビをつけてみると、家や車などが次々に流されていく映像が映っていました。町や市が、あつという間にしずんでいきます。あちらこちらで、火災が起きていました。何もできないぼくが、すごく悔しかったです。

ぼくは、このような経験は二度としたくありません。これからも火災にならないように火を使う時はきをつけていきたいと思います。